

# 元気なひとなかま



劇団 花さつき

## 劇団の旗揚げ

鈴鹿市で撮影された映画「埋もれ木」のボランティアスタッフが、「これで終わるのは寂しい。何かやらないか!」と言い出したのがきっかけで、5年前に結成されました。地元で愛されるように、鈴鹿市の花・さつきから命名し、現在は24歳から70歳までの職業もさまざまな10人の団員がいます。

**5周年記念公演作品のあらすじ**  
舞台は小さな村役場です。プライドの高い新人職員が主人公

で、あっと驚く展開が待ち受けています。みんなでこの日本を、地球を、守れたらという強い思いで取り組むので、ぜひ見に来てください。



## 5周年記念公演「かんとりい」

〔石薬師高校演劇部客演〕

とき 2月11日(土)12時30分  
開場、13時15分～鈴鹿混声合唱団、14時～劇団花さつき公演

ところ 文化会館げやきホール

入場無料

問合せ 長谷川まで

(☎080-5106-9978)

～被災地と共に「頑張ろう日本!」～

## モータースポーツに学ぶ

# 交通安全

## 「当然」を過信しない

私は時速300kmで走行中にブレーキ機能を失ったことがあります。直線コースの終わりの、たった4秒間で時速60kmに速度を落とさなければならない状況でのことでした。また時速240kmでのコーナリング中にタイヤが外れたこともあります。幸運にも奇跡的な生還を果たしたものの、片足を「彼岸」に踏み入れたのは事実です。そんな経験を重ねると、正常に働く機能に不信感を持つことさえありますが、レースという戦いの場ではその境地を踏み越えなければなりません。

一方、人より速く走る必要のない公道では、前に割り込まれるほど車間距離を空けてしまいます。当然のように働いている機能が突然失われることはまれなことですが、当然のように守られている安全性は、誰かに保証されているものでもありません。その可能性はレースに比べて相当低いとはいえ、ゼロではないのです。人生に一度でもあれば大変なことです。



レーシングドライバー 福山英朗(鈴鹿モータースポーツ友の会 理事)

## 広報すずか 2012年2月5日号

## キーボード

成人式の取材に行きました。そのためでしょうか、20歳のころを振り返り、あれからどれくらい成長しただろうとSMAPの歌のように自分に問い掛けてしまいます。昔、先輩から「人は教えているときに一番学ぶ」と聞きましたが、当時は意味がよく分かりませんでした。年の離れた人物から多くを学んできました。同世代は、同じ時代の空気の中を育ててきているので、そうそう自分と違いはないものです。比べると経験

値の多い人生の先輩には、さすがに一味もふた味も違うところがありました。

最近、年下から教えてもらうことも多くなりました。知識だけでなく、自分にはないものを感じたり、自分が与えたい影響を目の当たりにして、くすぐったいような刺激を感じています。

成人式から20年、今も少しずつ成長しているのだと思いたいですね。(保)



鈴鹿市携帯サイト  
「元気モバイル」

■発行/鈴鹿市 〒513-8701 鈴鹿市神戸一丁目18番18号 ☎059-382-1100 (代表) ↑ <http://www.city.suzuka.lg.jp/>  
■編集/企画財務部秘書広報課 ☎059-382-9036 ☎059-382-9040 ✉ [hishokoho@city.suzuka.lg.jp](mailto:hishokoho@city.suzuka.lg.jp)  
■印刷・制作/指定就労継続支援事業所 第2八野ワークセンター印刷係 ☎059-375-4381 ☎059-340-8810



古紙配合率100%再生紙を使用しています。この冊子は資源ごみの「新聞」に分別してください。